

事後評価シート

調査研究課題名	三世代共生ユニバーサルデザイン社会の構築に関する調査研究
担当者	研究調整官 佐野透、研究官 加藤隆重、研究官 井上延亮
①当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、鉄道駅等のバリアフリー化が「高齢者及び子育て世代の公共交通を利用した外出の促進」や「移動の増加を通じた地域の活性化に及ぼす影響」について、どのような効果をもたらすかを個別・具体的に明らかにするために取り組んできたものである。</p> <p>アンケート結果や駅乗客数の調査結果から鉄道駅等のバリアフリー化により、外出促進効果や地域活性化効果があることを明らかにすることができ、当初の目的を達成することができた。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>インターネットによる全国調査とケーススタディ地区におけるアンケート調査等を行い、両者の結果から全体の妥当性の確認を行うとともに地元自治体や鉄道事業者等にも協力を頂き、ケーススタディ地区における詳細な情報や鉄道の利用状況等の検証を行った。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>有識者、地元自治体、地元関係団体、鉄道等の事業者等からなるアドバイザー会議を設けるとともに、国土交通省の関連部局（総合政策局、鉄道局）にオブザーバーとして参加していただき、的確な意見・示唆を受けながら調査研究を進めることができた。</p>
④成果と活用	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果を当研究所のホームページで公表し、また、関係者等へ情報提供することにより、バリアフリーに関する協議会等の議論の場で成果を有効に活用してもらう。 本調査研究を踏まえて、21年度から地域特性の異なる他地域での調査を実施し、さらなる検討を行う予定である。
⑤その他	<ul style="list-style-type: none"> ・PRI Review 第29号(2008年夏)、第31号(2009年冬)、第33号(2009年夏)に掲載。